

## 2011 学生応募企画 優秀企画

No	16		
活動を行う国・地域	タイ		
活動テーマ	「タイの障害児に子ども用車椅子を届けよう！」		
グループ名	トムヤムちゃん (小泉ゼミ)	企画代表者	広瀬 由梨 (相模女子大学)
支援内容			
<p>1、発電機の無償貸出 福島第一原子力発電所の事故により関東全域で深刻になっている電力不足を解消するためにタイ電力公社がガスタービン発電機を開連施設ごと丸々2機無償で貸し出してくれた。5月末に日本に到着、現在関東近辺に移設中で8月下旬に稼働開始予定。これにより約23万世帯分の電力供給が可能。</p> <p>2、スラムからの義援金 東日本大震災の犠牲者たちを追悼するために僧侶たちが法要を行い、ドワン・プラティープ財団、曹洞宗ボランティアグループ「シャンティ」がタイ最大のクロントイスラムにおいて募金活動。夕方までで323,600パーツ(約867,000円)が集まった。スラムでの一日の平均収入が日本円でおよそ300円程度(タイ統計局調べ)の事を考えるとものすごい大金であり、どれだけ価値のある86万円であるかがわかる。</p>			
この支援を選んだ理由			
<p>1、関東に住む私たちに震災による直接的な被害は少なかった。その中で電力問題は私たちの生活を直撃している。この発電所の支援は被災地はもちろん私たちへの支援でもあり、直接恩恵を受けることになる。実際計画停電や夏の節電で大変な思いをしているため、この支援がどれだけありがたい事なのか肌で感じているので1番にタイにお礼を言いたい。</p> <p>2、日本人にはあまり「支援されている」という意識がないように思う。タイではスラム街の人が、日々の生活が大変な中「学校・井戸・ダム建設などで、日本に助けてもらい自分達の生活が良くなった」と日本のために寄付をしてくれた。おごらずに、感謝の気持ちを忘れてはいけないことを私たちに気づかせてくれたタイの方々「ありがとう」の感謝の意を伝えたい。</p> <p>3、日本には、今回の我々の企画をサポートしてくれるNPO団体「海外に子ども用車椅子を送る会」が存在する。彼のノウハウを教えて頂くことにより、短期間でこの企画は実施することが可能である。当団体は、活動後継者の育成という問題を持っていた。学生にこの活動を広げることによりNPO団体、学生、支援国とのWIN/WINの関係が構築できる。なお、各国に車椅子を送り続ける彼らを通すことで、国内での車椅子回収、相手国側の連絡ツールとなるので具体的に、かつ永続的に活動が可能であると考えている。</p>			
活動概要			
<p>「子ども用車椅子をリユース・リサイクルして資源の有効活用をし、タイの身体障害児の助けとなることを目的とする。」</p> <p>☆なぜ、子ども用車椅子なのか→子ども用車椅子は大人用(介護用)とは違い、すべてオーダーメイドであるため20~30万円する。購入時はそのうちの9割は国の補助(国民の税金)で賄われている。しかし子どもの成長に伴い約3年で買い換えなければいけない。なお、使用できなくなった車椅子は破棄か放置する状態である。中古品購入時は補助金が支給されないので新品のほうが安い。従って、リサイクルされていないのが現状である。 ☆なぜ、タイなのか→タイでは現在障害者が全人口の1.8%を占め、そのうち最も多いのは移動障害である。また特別支援学校も少ない為、家を出ることができない子どもたちの平均寿命が短い。タイでは大人用車椅子は安く量産出来るが、鉄製で重く子どもには使いづらく、子ども用は一部の富裕層の子どもしか手に入らない。この企画は、日本でリユースされていない子ども用車椅子を海外に届けることにより、新たな資源の有効活用と障害児に移動を容易にして新たな世界を提供することが出来るグローバルなリサイクル活動が特徴である。☆私たちがこのプロジェクトを実行するにあたって、NPO法人に協力をして頂けることとなった。この団体は過去にタイに届けたことはなく、また私たちが活動を行う予定の神奈川県では現在このような活動は行われていない。そこで私たちが、日本でよりこの活動を広げ、交流先を広げるキッカケとなると考えている。</p>			
活動の輪を広げていくためのアピール方法			
<p>・FM 横浜→私たちの大学が神奈川県内にあることから、活動を行なっていく神奈川県のリジオで呼びかける。・ボランティアを行なっている学生、学校のホームページに私たちのホームページを載せて頂く。・SNS (Twitter,Facebook,youtube) →現在世界ではTwitterの利用者数は約3億人、Facebookの利用者数は5億人を超え、youtubeの閲覧回数は1日約30億回となっている。これは世界の人口の約半分が1日1回は視聴していることになる。このようなSNSは現在も利用者数が増え続け、世界中で利用されているため多くの人々に見てもらえる。・複数の大学と合同で行われるボランティアフェスティバルでの告知。・神奈川県や横浜市の広報紙に載せて頂く。また大学の広報を通じて、多くの人に知ってもらい支援して頂く。</p>			
継続的な学生交流や国際交流を促進していくための企画			
<p>「日本の家庭で使われなくなった子ども用車椅子をタイで車椅子を必要とする子どもたちに継続的に寄贈する活動を通じて、タイの恵まれない障害児の福祉の向上に貢献する。」</p> <p>学生交流 ・車椅子という貴重な資源をグローバルにリサイクルするこの活動を、私たちと同じたくさん学生の学生に広めていくために、ボランティア活動が発達大学・団体を探し、車椅子を整備・管理する作業を協力して行う。 ・2007年に日タイ修好120周年を迎えたことを機に、タイの自治体から日本の自治体と友好交流希望が寄せられており、新たな交流が出来る機会がある。そこで、相模原市とタイの自治体の間で新たな交流を進めることが出来たら、市のホームページを利用するなどの手段を取り、いろんな学生に知ってもらうことが出来る。</p> <p>国際交流→まずはプロジェクトを成功させることが第一である。その後の活動は以下の3点である。 ・ボランティア活動が発達な大学や学生団体を探し、私たちが調べることの出来ないタイの情報を現地のタイの学生達に調べてもらう。情報や現状などを共有することで交流を深めるきっかけとなる。 ・タイの人に現地での車椅子を必要とする施設を探してもらい、リサイクルされた車椅子を与えられた子どもが成長してサイズが合わなくなったら、その後次に適合した子どもに渡してリユースしてもらおう。あくまでも所有権は個人ではなく供与先であり、管理してもらう必要がある。そのため管理する施設または団体を探してもらい、協力してこのプロジェクトを行うことで交流が出来る。 ・車椅子のアフターケアの一環として現地の人々にも整備の仕方を教え、車椅子を常に安全に維持出来るようにする。</p>			